

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達相談センター・ベンチ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 14日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日		～ 2025年 3月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士、言語聴覚士、保育、社会福祉士、児童指導員といった専門職が在籍し、プログラムに携わっている。	・各専門職がプログラムの内容の作成に関わっている。 ・利用児一人一人のアセスメントを各専門職の視点で行っている。	それぞれの専門職が、専門分野の知識や技術を日々の活動で活かせるプログラムを構成していく。
2	少人数の集団療育の中であっても、利用児の発達段階、特性に合わせて支援内容を工夫し、提供をしていること。	・身辺自立に向け個々に合わせた声掛けや関わり、工作や運動時などもそれぞれの課題に合わせて支援を行っている。	スタッフ間での情報、課題の共有をプログラム毎に密に行い、支援内容、方向性を統一し支援をしていく。
3	希望があれば、園訪問を行っており、利用児の園での様子や支援を知り、実際の事業所での支援に繋げることで課題へのアプローチを行っている。	保護者のニーズを正しく把握するために聞き取りなどを丁寧に行っている。	今後も保育所等の訪問支援を続け、親和性を高め、園と保護者との情報共有、課題共有を行い、支援の質の向上に努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事務や会議時間の確保が難しい。	「本人支援」に重点を置いているため、事務、会議時間の確保が難しい。	事務、会議時間を抽出するために「本人支援」以外の業務の効率化を図っていく。
2	保護者様との情報共有についての難しさ。	全体的な情報提供（月の会報、お知らせ等）はメール配信、事業報告はHPにて情報配信を行っている。また月1回体調ノートへのメッセージや送迎時の申し送りの際に、お子様の様子をお伝えしている。保育園送迎など立ち合いが難しい保護者様との情報共有が課題となっている。	・SNSについては、保護者様それぞれの考え方や個人情報保護の観点から、情報の配信には慎重に扱う必要があると考える。 ・保護者様からのニーズや意見を取り入れ、適切な情報発信の方法を検討していく。
3			